

『住民と自治』(通巻698号)6月号付録 2021年6月1日発行 自治体研究社

とちぎの地域と自治

とちぎ地域・自治研究所 所報 第221号

〒3210218 壬生町落合 1-15-5 ポラノ・どんぶり 103号 TEL/FAX 0282(83)5060

メール: support@tochigi-jichiken.jp ホームページ: <https://tochigi-jichiken.jp>

郵便振替 00170-7-251641 とちぎ地域・自治研究所

- 長引くコロナ危機、医療・介護の実態とどう向き合うのか！それでもまだ政府は、医療費の削減をねらっている。このことは許しがたい。(上) 本田 宏 ----- 2

第63回自治体学校はDVD+Zoomでの開催に

第63回自治体学校はコロナ感染拡大、変異株の広がりにより鑑みて宇都宮での全体会を取り止め、全体会講演のDVD録画とZoomによる分科会で開催することになりました。詳しくは、自治体問題研究所HP (<https://www.jichiken.jp/>) を参照ください。

とちぎ地域・自治研究所第20回定期総会を開催

とちぎ地域・自治研究所は5月22日宇都宮市内で第20回定期総会を開催しました。コロナ禍のためZoom参加も併用しました。

記念講演は、清水奈名子宇都宮大学国際学部准教授の「脱原発に向けた現状と今後の行方について」でした。脱原発は関心も高くZoom参加も含め40名の参加でした。

定期総会では、太田理事長のコロナ禍等の情勢報告を含めた挨拶のあと、2021年度の活動報告・収支決算、2021年度の事業計画案・規約改正案・収支予算案が提案通り承認され、2021年度の役員を選出しました。

2021年度の事業計画では、第63回自治体学校の開催方法の変更にともない前号掲載の計画案の「はじめに」の一部を下記のように修正し取り組んでいくこととし、来年の研究所設立20年に向けて記念事業の準備



を始めること、さらにコロナ禍での医療、公衆衛生体制の課題、行政のデジタル化、公共サービスの産業化等重点課題に取り組んでいくこととしました。

規約改正では、消費税10%、「住民と自治」誌の卸単価の値上げ等を踏まえて年会費を研究所設立以来の10800円から12000円に値上げすることとしました。

【2021年度事業計画 はじめに】 今年7月の開催に向けて準備してきた第63回自治体学校は、感染力の強い変異株の広がりなどにより新型コロナウイルス感染が再拡大し、東京都や関西圏などに緊急事態宣言が発出される事態となったため、宇都宮での開催を取り止めリモートでの開催となりました。準備段階で高まった気運を今後の県内の自治体運動、地域の自治力を高める契機として活かしていくよう取り組みます。

長引くコロナ危機、医療・介護の実態とどう向き合うのか！それでもまだ政府は、医療費の削減をわらっている。このことは許しがたい。(上)

本 田 宏 (医師、NPO 法人医療制度研究会副理事長)

■ はじめに

コロナで今は多くの若い人、お勤めの人も含めて多くの皆さんが大変だなあと考えていらっしゃると思います。特に大阪などでは多くの方がやっぱり医療って大事ななあと思ってくださっていると思います。だけれども、私が埼玉の済生会栗橋病院にいたころからずっと俗にいう「たらい回し」、救急患者さんが受け入れられないということがあったんです。医療の問題というのは、お1人の方が例えばたらい回しで亡くなったとしても、お1人です。新聞に出たとしても、そのことがそれ以上話題が続かないんです。ところが、新型コロナでは毎日嫌というほど感染者数がどうだとかやっているわけです。人間って何でもそうですけども、自分の身に本当に降りかかったり身近にならないと危機感というのがなかなか気づきにくいし、継続しないですよ。ということで、私36年間医師不足のなかで大変辛い思いをして働いてきたものですから、「どげんかせんといかんよ」みたいになったわけです。

ということで、現場からずっと20年くらい全国で1500回以上講演しているんです。北朝鮮拉致問題の横田滋さん、お亡くなりになりましたけれども、あの方は1400回だったですね。回数だけでは勝っているけれども全然有名じゃないんです。何故か。テレビでやらないからです。日本はOECDと比べると13万人医師不足なんです。でもテレビで13万人不足と聞いたことあります



か。いくら言っても報道してくれないんです。正しい情報が皆さんに伝わっていないんです。だからしょうがなくて私が一生懸命1500回も20年間話してきたんです。

昨年久々にテレビに出れました。TBSの「噂の東京マガジン」です。このとき同時にある有名な公的な放送局からも電話が来ましたが、「医療崩壊する」と言ったら、二度と連絡が来なくてテレビに出られませんでした。昨年4月には、ある女性のフリージャーナリストから「日本の医療どうですかね」というから、これこれこういう事情で日本の医療は危ないですよと言ったら、「すみません。私、医療は大丈夫だ」という記事を書く予定だったものですが結構です」と断られました。そのくらい皆さんいろんな思惑があって報道されてるんです。最近も私有名な朝のモーニング何とかという番組に何回も何回も医師不足のデータを出していますが、いくら出してもスルーでした。

ということで、今日皆さんのお手元にお渡ししたデータは、周りの方にもテレビなんかをみながら、医師不足なんだよね、テ

レビでやらないよね、これで大丈夫かなというようにお話していただけるとありがたいと思います。

今年の3月24日、衆議院の厚生労働委員会で話をして参りました。私、実は衆議院の厚生労働委員会で3回話をしているんです。先日も13万人医師不足と何回も何回も言って、そこにいた与野党の議員さんが皆んな頷いているのに大手のメディアは一切書いてくれませんでした。皆さん、これが日本なんです。本当に正しい情報がないと、正しい判断ができないですね。だからPCR検査もやらないでしょ。あれ世界で何故やっているかという、できるだけ



3月24日衆議院厚生労働委員会参考人発言
(本田 宏) <https://bit.ly/3dbjbm0>

の位感染しているか調べないと話にならないんです。検査をしないで、ただマスクだけしなさいって、それ完全に「今一（今市）」です。

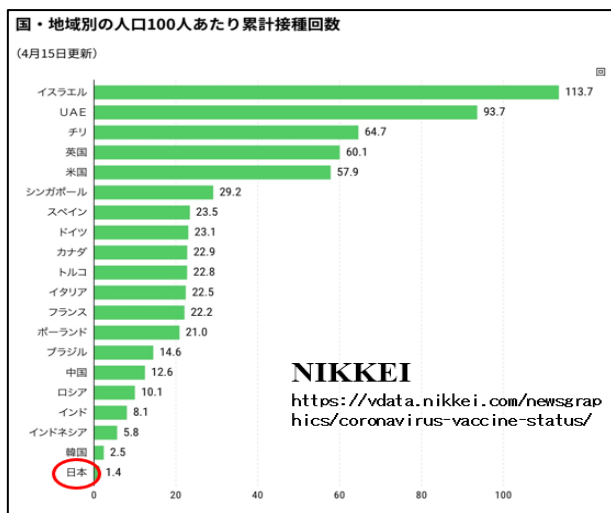
■ 内村鑑三「自分たちはこの世を少しでも良くするために何ができるのか」

最近、労働関係の雑誌「学習の友」で見たんですけども。内村鑑三さんが「自分たちはこの世を少しでも良くするために何ができるのか」と言っていました。おそらく今日いらしている方は皆さんそう思っていると思います。本当はこれは誰にでもできることなんです。別に政治家にならなくても、周りの人にいろんな働きかけをしたり話したり、そういうことをしている方が今日いらしているわけです。皆さん常に努力

している。そういう気持ちで我々は活動しているということです。だから、一足飛びに良くならないにしても、一歩でも二歩でも先に進みたいという形で努力していくことが大事です。ただし、その努力する時にやっぱり工夫が必要だということです。あと、日本の現状はどうなのか、国民性がどうなのかということも考えながら訴えていかないと、なかなか伝わらない場合もあるということです。

■ 世界のワクチン接種状況

これは世界のワクチン接種状況です。日本は凄く少ないということは皆さんご存知ですね。このワクチンがいかにどうかか副作用がどうかということはチョット置いておいて、こういうことに関しても日本の政府はチョット危機管理体制がどうなのかな、本当に国民を検査もせず自粛だけで守れると思っているのかしらと。危機管理できない政治が憲法を変えてしまっているのかしらって、私の不安は皆さん



と一緒にしょ。だいたい今、日本はこの憲法も守られていないんです。憲法を守っていない人が憲法を変えちゃ駄目ですよ。今の憲法を守れないのに変えるというのは100年早いんじゃないという話です。けれども、こういうことをテレビで言えない

■ 私の自己紹介

私は最近、話をするとき目目の前の人があるどんな経歴の人かということを考えて話を聞いた方がいいよという話をしています。最近東大の駒場の学生さんなんかに講演をする機会がたまにありまして、そういう時にも必ず話すんです。日本人というのは超いい大学を出た人とか、俗にいう偉い人は正しいことを言っていると思っている人が多いんです。でもそれは誤解です。私が何故こういう話をするようになったかという

と、チョッと自己紹介をしたいと思えます。私は福島県の郡山で生まれました。3歳までは二本松で育ちました。私の父親は二本松市の呉服店の次男でしたから後を継ぐわけにはいかないので、郡山で小さい洋品店を開業いたしました。だから私は父親や母親が苦労しながら商売している小さい洋品店の長男でした。福島県で一番古くできた金透小学校と高校もたまたま一番古い安積高校を卒業いたしました。昭和29年生まれの66歳です。こういうところで育つと、昭和30年代当時ですから、例えば「嘘つきは泥棒の始まり」「質実剛健」「義を見てせざるは勇無きなり」、あと福島県ですから当然「ならぬことはならぬものです」と教わって育ちました。だから他の人も皆んなそうだと思っていました。偉い政治家の先生方も輪をかけてそうなんだろうと思っていました。ところが、そうでもないということが後になって分かってきたんです。

んです。憲法25条の「全て国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」をちゃんと守ってからより良くするんだったらまだ分かりますよ。今の憲法も守れないのに憲法を変えろというのは本当に駄目だなと思っています。

高校3年までは将来の夢は飛行機のパイロットでした。自分の家が小さい洋品店で将来はどうなるのかと子ども心にもいろいろ考えていたんです。後を継がなくて良かったんです。後を継いでいたら今頃イオンとかイトーヨーカ堂で大変でした。パイロットになりたくて宮崎の航空大学校の受験票を取りました。そして高校3年生のときにあと2週間くらいで宮崎に行くという時に、母親が涙を流して泣いて反対したんです。何故か。郡山に戦争中爆撃があって、母親は大事な友達を亡くしました。『もしあんたがパイロットなんかになったら、いざ戦争が起きたら、必ず兵隊に呼ばれて引っ張っていかれる。だからお母さんは反対』と、涙を流して反対したんです。高校3年生の秋です。困りました。私は母親の涙に勝てませんでした。それでパイロットになることを断念して、いろいろ紆余曲折があって青森県の弘前大学の医学部に入って、その後東京女子医大に行き、そして埼玉県の北端の病院に来て医師不足を感じるわけです。これは「どげんかせんといかん」ということで20年間講演とかいろいろやってきたわけです。

福島県で社会に疑問を持った大きな一つは原発事故です。福島では今度トリチウム水まで排出されようとしています。どうも明治維新以来の歴史が関係していると思っています。

最近では、このままでは日本は駄目だということ、埼玉県の安保関連法反対の活動に参加して、外科医は6年前に引退しました。今さらながら振り返れば、人生って短いですね。私は若い方たちに話す時に必ず言っています。皆さん小学校一年生の時にいつになったら6年生になるのだろうと思わなかったですか。それがあつという間に6年生だよ。もう卒業して66歳なんです。

あともう一つ言えることは、人生を山登りにたとえればふもとを歩いているときは高い木が茂っていて世の中の全体が見えない。ところが頂上が近くなるほど見晴らしが良くなる、世の中が広く見えてくる。日本社会全体が、そして世界も見えてくるんです。そしてここで今までの歴史を考えると、歴史的な経過も含めて考えられる。何故日本がそうなのかということが見えてきますから、歳をとることが決してマイナスではありません。いろんな意味で能力が低下する部分はありますけれども、だけでもその分知識も増えて、別な勉強や活動にも使えますから。歳をとることはマイナスではありません。だけど、年取った時に先程の内村鑑三さんではないけれども、せつかく社会が見えた分だけ、それをどうにかし

て少しでも良い社会にしたいなということ活動をしてみる意味はあるんじゃないかと思っています。やっぱり、社会が見えてこないとどう良くしていくのかも分らないですよね。



2002年から活動を始め、朝日新聞、NHK、おはよう日本、関西の方のテレビの「たかじんのそこまで言って委員会」、朝まで生テレビ、菅原文太さんとのラジオなど、かつてはメディアにも結構出ていました。毎日新聞には毎月1回5年間連載をさせていただきました。ところがこれだけ活動していても、今全国に講演に行つて私のことを知っている人はほとんどいません。つまり、いくら正論を言つてもなかなか伝わらないんです。オリンピック、ラグビー、AKB、毀滅の刃、二刀流の大谷などいろんなことが報道されるので、そつちに目がいつちやんうんです。だから本当に大変なんです。

■ 本庶 祐 自分の目で確信できるまでやる

今日私が言いたいことは学生さんにも必ず強調してお話していますが、皆さんおそらくご存知の京都大学本庶祐先生の言葉です。「自分の目で確信できるまでやる」とおっしゃっています。2018年、京都大学の立て看板ですが「受験生の皆さんへ。偉い人の言うことがすべて正しいなんてはい



えない。偉い人は自分の立場を守るために平気で嘘をつくし、真実をもみ消そうとする。だから人の言った事を安直に信じるのではなく、自分のちからで真理を探求し、自分の考えで物事を判断して欲しい。真実は自分の目で確かめるものです。大学とはそういう場所だと思います。試験頑張ってください。京大の今を憂うる一京大生」とあります。素晴らしいですね。こういう学生さんもいるんですね。私医学生のころ、こんな事一回も思ったことはありませんでした。だから40歳を過ぎるまで、俗にいう偉い人は嘘を付くわけではないし、ちゃんと国民のことを考えてしっかり政治をやっているはずだ、そう思っていたんです。ところがこの立て看板正しくないですか。偉い人は自分の立場を守るために平気で嘘をつきます。「7万円の会食にあなたは行きませんか」、「記憶にありません」。そんな記憶力

の人がそんないい大学を出ているんですかって聞いてみたいですね。これが皆さん日本なんです。だけど、多くの人は、こういうことを知らないから、例えば選挙でも俗にいういい大学を出た人がポンと中央から降りてきて立候補すると、その人はいい人に違いないと思っちゃうんです。いい大学を出たということとその人の志は別だということをやっと考えて、投票して欲しいと思います。

皆さんご存知かもしれませんが、このあとで京大の看板は全部撤去されました。立看板が全部撤去されたら、その後学術会議の委員の任命拒否問題がおきました。学生の声を封じたら自分達の声もしっかり封じられたという話なんですね。怖いんですね。思想信条の自由、発言の自由を守っていかないと、いつか自分のところにも圧迫が来るといことです。


■ 日本の学校は、考えない人間を5つの方法で生み出している

今日私はこの社会を良くしたいと思っている方がいらっしゃるという前提で話をしていますので、今後どうしたらいいのかということについて、まず日本人の特性を確認する必要があります。私36年間医者をやっていましたので、診断を正しくするということが絶対だと思っています。例え

ば、お腹が痛いという人が来た時に、手術しないとイケないのか抗生物質で様子を見ればいいのかという診断を間違えると命が危ないです。だから私はPCR検査もちゃんとした方がいいと思っています。

そういう意味で日本の教育はどうか。実

は海外では課題について話し合う議論をさせます。ところが日本ではそういうことをできるだけさせない、考えさせない人間を育てているんです。考えさせない人間を育てるとどういうことになるか。「多くの日本人は勘違いをしているが、覚えると考える




Darkness
ムルマカ編

日本の学校は、考えない人間を 5つの方法で生み出している

鈴木傾城氏ブログより引用改編
<http://www.bilackz.com/?m=c&c=20140116T1554000900>

- 1 暗記を押し付けて「考えさせない」
- 2 苦手を押し付けて「考えさせない」
- 3 制服を押し付けて「考えさせない」
- 4 規則を押し付けて「考えさせない」
- 5 団体行動を押し付けて「考えさせない」



日本は考える授業が少ない

多くの日本人は勘違いしているが、覚えると考えるは別

日本では国民の8割がサラリーマンのため学校の重要な使命は上司の言うことをよく聞いて、口答えせず、言われたことを忠実にやり、不満があっても黙々と働き、集団生活を優先するように規格化すること

は別。日本では国民の 8 割がサラリーマンのため学校の重要な使命は上司の言うことをよく聞いて、口答えせず言われたことを忠実にやり、不満があっても黙々と働き、集団生活を優先するように規格化すること」（鈴木傾城氏ブログから）。

制服、髪の毛の色、下着の色まで決めているという話ですね。とにかく考えさせない。だからこれは、日本の若者とか我々も

■ ドイツの小学生が「デモの手順」を学ぶ理由

ドイツは日本の福島原発を見て脱原発を決めました。どうしてそうなったか。ドイツでは小学校のころから「デモの手順」を教えるんです。例えば下水が臭いとかと思ったら、次にどうしたらいいのか。市役所に言う。それでも解決しない場合は、地元新聞紙の方に訴える。それでも駄目なら社会運動を行うということを小学校から教えているんです。キーワードは「喋る」こと、議論です。話し合うということをすごく重要視するんです。日本では話し合うことを重要視していないから、偉い政治家の先生も官僚が何か言うだけでうるさいから首切るでしょ。あれは議論に慣れていないからです。実は私も残念ながら厚生労働省からは余り好かれていないんです。でも私は日本の医療が崩壊しないようにと思って言っているんです。別に厚生労働省の人を首にしようと思って言っているわけじゃないんです。議論に慣れていないもんだから、自分の政策に反対する人は皆んな駄目なやつだと思っちゃうように日本は仕向けられている危険性が高いんです。これは非常に怖いんです。

実はこの間ドイツにいる方とお話をしました。自分のお子さんがドイツの学校に行っているわけです。俗にいう筆記テストは

そういうふうに教えられたんですが、それを否定しているのではなくて、我々はそういうふうに教えられちゃっているんですよということを前提にして、どういうふうにアプローチするかという意味で言っているんです。別に馬鹿にしているわけではありません。ただこういう教育方針で我々は育てられてきているということです。

クラスでナンバーワンなんですって。ところが全体の評価は一番じゃないんです。何故って聞いたら。余り議論しないし話さないからかもしれないと。そのくらい日本みたいに無口で点数だけいいというんじゃない駄目なんです。あとはナチス時代の反省ですね。政治的に成熟できるよう教員が生徒を圧倒しないこと。実際の政治で議論があることは、そのまま授業でも扱うこと。これなんか日本では「中立」といって扱わせないですよ。これじゃ駄目です。例えて言えばですけども、この間の 7 万円みたいな会食するっていいの、高校生だって 7 万円の会食はチョット駄目じゃないかなっていろいろ考えますね。日本ではそのことを話させないんです。「中立」というのは話させちゃいけないんです。「生徒が自分の関心や利害をもとに政治参加できるよう、能力を取得させること」がドイツです。

だから原発も脱原発なんです。これも先程申し上げたように、我々が訴えかけたい人たちは、こういう教育を残念ながら受けていないんだという前提で、だからどうしたらいいんだということを考えて活動しないと、例えば一生懸命ビラを配ったり街頭宣伝をしたりとか、いろいろやっていると、下手をすると、あの人たち怖いおじさんな

んじゃないか、おばさんじゃないかなと誤解されちゃう危険性までがあるということなんです。そうするとせつかくの努力が水

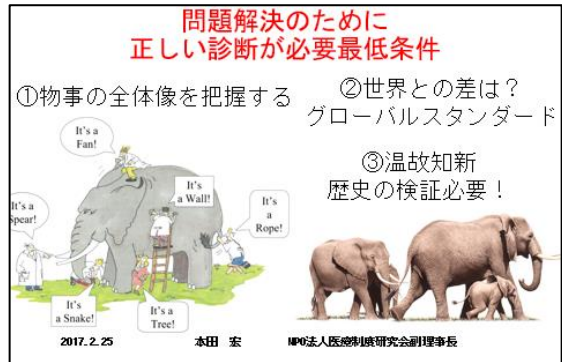
の泡でしょう。そういうこともどうしたらいいのかということをおは考える必要があらんと思います。

■ 問題皆解決のために正しい診断が必要最低条件

日本の問題の全体像を把握するのに私がこの活動をして学んだことは、例えば九条だけではない、安保関連法、生活保護、社会保障、医療全てです。日本という像の全体像をどう把握するか、その時必ず大事なものは世界との差です。グローバルスタンダードはどうなっているのかということです。そういう意味ではPCR検査は分かりやすいです。新型コロナが日本だけで流行していたら日本の政策が良いかどうか比べようがないです。世界と同時に問題が起きているから比べられる。そして日本が何故こうなのかという歴史も考えなければいけないと思います。

それからもう一つ、日本の政治が何かをする時に私は必ずこういう見方をします。

「Follow the Money! いったい誰が得をする？」その政策をすることによって、そのお金がどこに行くんだらうか。例えば東京オリンピック。皆さんもご存知のように日本の国立競技場というのは過去最高の値段



なんです。オリンピックを中止したらどうなるかといわれていますが、お金はちゃんとすでに入るところには入っているんです。だから看護師もボランティアで 500 人なんて言われるんです。それから辺野古基地もズブズブになっちゃっているでしょう。あんなズブズブで多くの杭が勿体ないという人がいるけれど、いっぱい杭を打つ方が得だと思ふ人もいるかもしれない。つまり Follow the Money! これをすると誰が儲かるのかな。儲かる人が応援しているかということなんです。

■ コロナ禍の医療

前置きはこれくらいにして医療の話に戻ります。去年の4月22日の日本経済新聞です。日経新聞は良い意味でもいろんな意味でも経済が最優先の新聞です。経済を落ち込ませないためには①再生産指数を下げる。つまり感染を抑制するという事です。それから②検査数。検査をしっかりとやって状況を把握する。そ



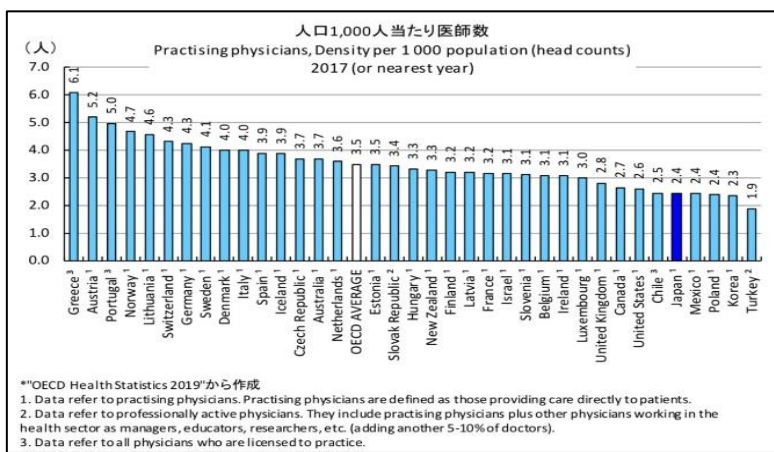
して③重症者ベットを確保する。去年の4月にすでにこう言っているんです。

今大阪は駄目でしょう。不思議なことにPCR検査も国民には広くしないけれどもオリンピック選手だけには毎日するみたいです。あんなにPCR検査というのは偽陽性と偽陰性があって駄目だと言っていた人がオリンピックの時だけ誰もその問題を一言も言わない。あとは重症者ベットが少

ない。これも、ベットが大変だベットを増やそうとは言うけれども、重症者ベットが元々少なかったとか、重症者を見る医師が少ないんだということはテレビでほとんどやらないでしょ。ベットだけ増やせばベットは自動的に治療してくれると思いますか。医師・看護師スタッフがいないればベットは機能をしないんです。だからこういう大事なことが国民に伝わっていないんです。

■ 新型コロナ PCR 検査数 v s 人口当たり医師数

これはPCR検査数です。PCR検査数は初めから増えないんじゃないかなと嫌な予感がしていました。なぜか、日本の医師数も少ないからです。日本の国は医師数が少なくても平気なんです。そして医学部定員を近々もっと削減するんです。それから皆さんご存知のように保健所も半分に減らしてきました。感染症のベットは8分の1くらいに減っています。こうやって日本国民の生命を守る医療を削ってきたんです。全然余裕がない状態だったんです。だから去年の4月に私はあるメディアの人に日本の医療崩壊するよと言ったら、すいません私は医療は大丈夫だという記事を書くんで、今回は結構ですと断られたんです。私はそのメディアの人の恨みません。そのメディアの人だってお



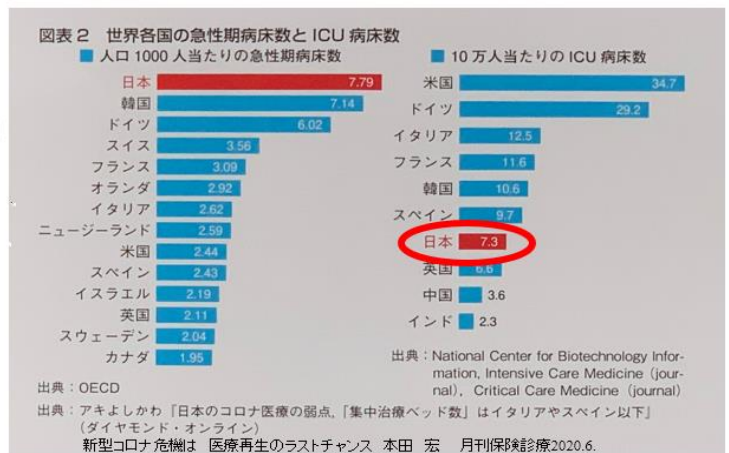
金がなければ生活できないわけですから。だから、どここのメディアが悪いなんて言ってもしょうがないんです。こちらが賢くなるしかないんです。そしてこういうふうにとゆまず情報を出していくという努力が必要だだと思います。

今回個人的にいうと、新型コロナでリモートが普及してきたということは非常にありがたいですね。リモートだと、今までは沖縄から北海道まで呼ばれて、そこに行って話をしていたんですけども、リモート講演を録画しておくとかとあとで見てもらえるし、先程言ったような理由で是非皆さんも活用されたほうがいいです。こちらは大手メディアを活用するようなお金がないわけですから。

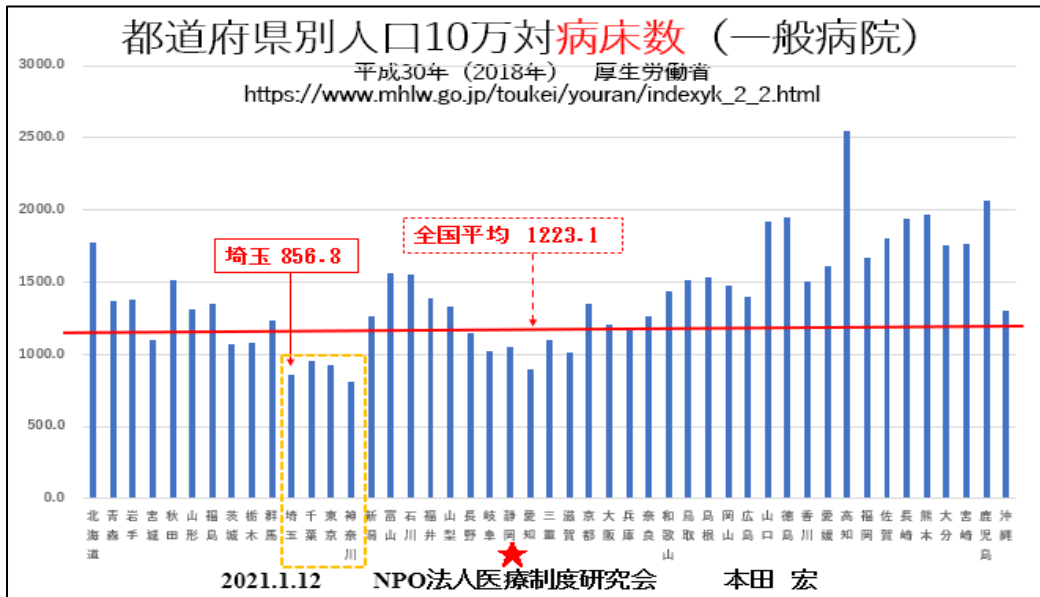


■ 日本の「ICUベット」不足

ベット数です。日本のベット数は世界に比べて多いと非難されましたが、そのなかには精神科のベットが入っています。そして重症者のベットは少ないんです。こういうことも大手メディアではきちんと報道されません。

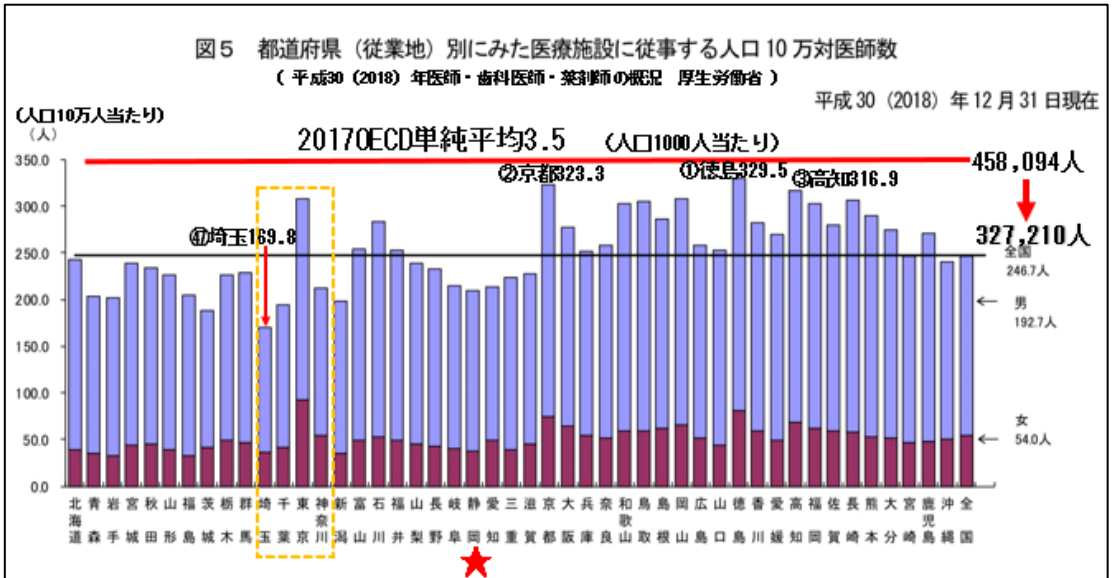


■ 都道府県別人口10万対病床数（一般病院）



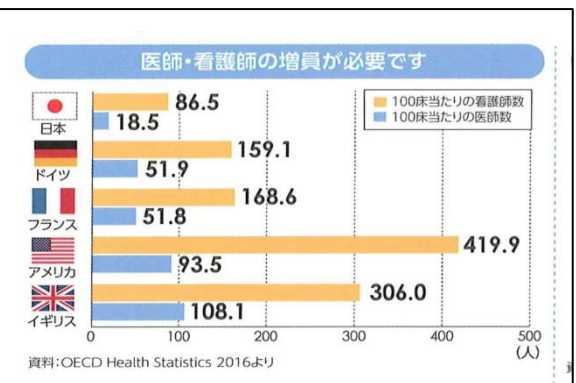
これは私が厚生労働省のデータから自分で作ったものです。都道府県別の人口10万人当たりの病床数です。全国平均は1223.1です。首都3県は平均以下です。栃木県も平均以下です。だから首都3県が医療崩壊

■ 日本の医師数「327,210人」OECDと比較して「約13万人不足」



あと医師の数です。これは人口当たりの医師数ですけども、首都3県の医師数は全国からみても少ないんです。栃木県も平均以下です。OECDと比較して日本は13万人不足しているんです。日本で一番多い徳島県、京都府、高知県もOECDの平均にさえ到達していません。こんなことはテレビでやりません。衆議院の厚生労働委員会で13万人少ないとしゃく言いましたけれども、全然増えません。だから日本では新型コロナは自分で注意するしかないんです。とにかく日本はキャパがないから新型コロナに感染したら負けなんです。

次に看護師の数です。看護師の全国平均は1398人です。首都3県は平均以下です。この状態でオリンピックで看護師のボランティア500人ですから凄いですよね。栃木

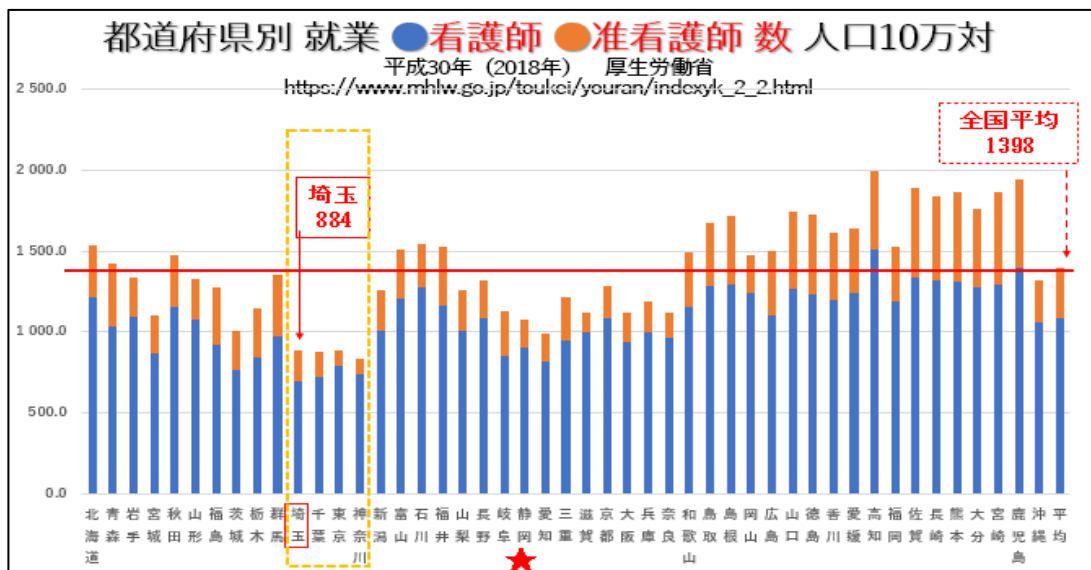


県もやっぱり平均より少ないです。

このように看護師も医師も少ないことを見逃してはいけません。

実はこんな大事なことを偉い政治家の先生も知らないんです。だって厚生労働省は、日本の医療は凄いです、国民皆保険です。私が医師不足だと言っても、いや偏在しているだけですよ。本当に正しい現状を知らないと怖いですね。私は今

の日本を見ていると、何かインパル作戦みたいなことを感じるんです。弾も食物もないのに、前に進めと、取りあえず食べ物も行った先で調達しろと、それって駄目でしょう。



■ 10年前から感染症専門医不足今も専門医は約1500人！

医師不足に対しては、私は10年前に毎日新聞(2010年9月17日)に感染症専門医はその当時2000人くらい少ないと書きました。今も1500人少ないんです。日本では3000人から4000人必要なのに、10年前には1015人しかなくて、今は1500人です。これもあまりテレビでやってくれないですけども。ベットだけ用意しても感染症の専門医がいない病院が日本では珍しくないんです。そうすると専門でない患者さんを診るのは凄くストレスが掛かるんです。専門でないと治療の質を高めるのも難しいんです。例えて言えば、野球選手にサッカー選手が怪我をしたがらサッカーの試合に出てくれというようなものです。日本感染症学会の館田一博先生も日本の400余りの感染症指定医療機関で感染症専門医がいる施設は144で、256施設は専門医が不在と言っています。ここで何が問題かというところ、専門医がいないのに厚労省は感染症指定医療機関として認めていることです。そして

感染症は極めて普遍的に見られる疾病で、世界の年間死者数の3分の1を占める。日本感染症学会は08年、日本の300床規模以上の医療機関(約1500施設)には感染症専門医が常勤すべきで、専門医数は3000〜4000人程度が適正との見解をまとめた。しかし今年4月8日現在、その数は1015人で、日本看護協会が認定している感染管理看護師も1179人(今年7月現在)だけだ。このため、地域の中核病院

ただ3密を避けてとか、若い人にどんな言い方をしたら自粛してくれますかとか、なんかわけのわかんないことを一生懸命やっているんです。

(次号に続く)

【参考図書】

本田宏・和田秀子著「日本の医療崩壊をくい止める」泉町書房 2021年

本田宏著「Dr. 本田の社会保障切り捨て日本への処方せん(改訂版)」自治体研究社 2020年

(本稿は、当日の講演録を基に事務局が編集した原稿に講演者が修正を加えて作成したものです。)